弘前大学出版会より新刊紹介

『太宰治直筆ノート複製セット』

弘前大学附属図書館　編

太宰および太宰文学の原点を知る宝庫！

―太宰研究者、太宰文学愛好家へ―

太宰治は、1927 年に弘前大学の前身である官立弘前高等学校に入学した。本資料は、そのときの「英語」と「修身」の自筆ノートを忠実に複製したものである。「英語」ノートは大部分が Thomas Babington Baron Macaulay と Charlotte Brontë による著作の日本語訳の口述筆記。「修身」ノートは、修身を受け持った宮城敏夫教授自身が研究し、思うところをみずからの言葉で講義したものと推測される。

２冊のノートには実に多くの落書きがある。その大半は戯画化された肖像画と自己の署名などであるが、太宰治の筆致を如実に見ることができる。英語の授業への生徒達の不満や修身の授業への大正デモクラシーの影響なども読み取れ、当時の太宰をとりまく様子がいきいきと伝わってくる。

本資料は太宰研究の基礎資料であるとともに、昭和初期の官立高等学校においてどのような教育がなされていたかを知る上でも貴重な価値を有するといえよう。

（発行：2013 年 3 月 29 日/定価 12,600 円　限定 150 セット）

『十年間の歩み－弘前大学第十二代学長　遠藤正彦原稿集』

弘前大学学長秘書室　編

弘前大学の遠藤正彦前学長の在任期間は、10 年間という長期に及ぶ。この期間は、全国の国立大学が国立大学法人化されたことにより、自主・自律が求められ、他大学との競争が激しさを増すという、歴史的大変革の時期であった。この大変革の中で、学長が様々な原稿を、苦心しながら推敲している姿を直に見てきた歴代秘書６人が、自ら申し出て企画・編集を行ったのが、この原稿集「十年間の歩み」である。秘書達は、遠藤学長が在任中に作成した入学式・卒業式の告辞、式典の式辞、祝辞、挨拶、出版物の巻頭言等、およそ 600 点に及ぶ原稿の中から、事項、状況などを勘案して項目に分け、約 80 点を選び出した。その当時の弘前大学の置かれている状況や、法人化によって変わっていく様子が読み取れる、貴重な記録でもある。

この原稿集が、遠藤学長自らが興し育てた弘前大学出版会からの出版であることも、また意義深いことである。

（発行：2013 年 3 月 28 日/定価 4,200 円）